

## 良き時代の球磨川と水害の体験から

私は、人吉市中神町大柿の球磨川にかかる天狗橋の側で生まれ育ちました。私達が子供の頃は、災害といえは210日と220日に台風が吹くくらいだったと記憶していません。台風で天狗橋が吹き飛んで(当時は吊橋だった)しまうと、新しい橋ができるまでは、渡し舟が生活道でした。当時、父( )が渡し舟を運航していました。

大水が引いた後は、浅瀬に夜鮎をつかみ獲りに行き、20~30匹位を2~3日は続けて獲り楽しんだものでした。川カニもウケ(入ったら出られなくなる竹で編んだもの)で、毎朝10キロ位は獲れていました。また、ウナギテゴも5本位浸けて、朝上げに行くのと口のすぐ下くらいまで入っており、ウナギ屋さんを持って行き、お金をもらい文房具などを買いました。また、祖父がヒビ(オイカワを獲る道具)に味噌と赤土、ヌカを混ぜた物を入れ、4本くらい朝浸けて夕方上げに行くと、茶摘籠に半分位獲れ、串に刺してあぶったものを人吉の旅館に注文をとり、姉が自転車で毎日のように持って行き、生活費の足しにしていました。

その頃、私達は、球磨川で泳いで遊びましたが、白い石を川に投げると水が綺麗だったので底まで見えて、4~5mくらい潜って石を取り合って遊びました。その頃、球磨川下りの船が来ると、瀬の所で鬢にぶら下がり飛び込んで見せると、観光客が喜んでミカンやリンゴを投げてくださいました。今振り返って見ると、幼いころの懐かしい思い出です。

その後、昭和30年11月に結婚し、球磨村の渡にうつり54年になります。結婚した当時、相良橋(昭和9年竣工)の下に渡し場が残っていましたが、川で洗濯をしたり野菜を洗ったりもしました。当時、大水の後、濁り掬いもしましたが、網を上げるのが大変なくらい鮎が獲れました。たくさん獲れた鮎は、塩漬けにして保存食として良く食べました。昭和35年に市房ダムができてからも、しばらくは大水が楽しみでした。

昭和40年7月3日は別でした。いつものように下の家の荷物を預かった後、主人が隣の荷物の片付けに行ったので、私は叔母さん達が来るといっているので、ご飯の用意をして急いで家に行くと、家の土間に水が来ていました。主人に連絡し3人の方に来ていただきましたが、水の来るのが早くて、オルガンと子供の整理タンスを2階に上げた時には、畳が水で浮き上がっていました。

主人は、郵便局の電話交換をしていましたが、最後の通信を終り、非難しますと言ってやっと水の中を逃げる事ができました。私は、柱につかまっていたところに消防の人が舟を持って来て、助けてくださいました。命からがらとはこういう事をいうのでしよう。それから数時間が過ぎ、腰まで水につかりながら主人と家に行った時、洗濯機のアースが手にかかり、拾うことができました。

この日、増水が早く3人(長女小学3年、長男1年、次男4歳)の子供と私の父を隣の医院に避難させましたが、先生は4歳の次男をおぶって行ってくださいました。子供達

は、あわてて机の中にあった教科書を残し空のカバンだけをからって避難しました。

私の家は、古い家で2階はありましたが、板張りでしたので、郵便局長が持ってきてくれたムシロ4枚と救援物資の毛布1枚をひき子供達を寝せていました。家の片付けはしましたが、柱だけ残っていて住めるような状態ではありませんでした。家族の着替えも十分ではなく、泥水で下着を洗う日が続きました。食事も救援のソーセージや握り飯くらいだったと思います。

その後、本家の土地を少し分けてもらい、家を建てました。家が狭かったので、姉の希望もあり人吉に建て直したかったのですが、主人が「渡から離れたくない川の側がいい」というので、元の屋敷後に一階を駐車場にして、家を再建しました。再建しましたが、洪水は何度もあり、避難も数回経験しました。

現在は、主人の年金で生活していますが、家のローンや介護保険料などで厳しい生活を強いられています。ダムさえ無ければこんな事にはならなかった、楽しい老後が送れたのにと非常に残念です。

ダムは、人々の生命と財産を守るためと国交省は言いますが、ダムは世の中のためには絶対なりません。

## 球磨川流域の治水対策について

川辺川ダム建設については、推進派、反対派双方から様々な意見が有っているが、最終的に流域住民の生命、財産を守るためにどういう治水対策が可能かと言うことであろう。

基本高水量7,000tで議論されてきているが、今回の有識者会議の中で、地球温暖化が進み異常気象が考えられるなか、計画の高水量を多めに見直す必要があるような発言もなされている。又ある委員からは、遊水池の案が出されたが、これについては前回までのダム討論会の中で、代替え案として反対派から提案されたが、実現不可能なものであった。たしかに昭和30年代は錦町や相良村の球磨川沿いの農地は、堤防も無かったため、大きな雨の度に浸かっていたことを子供ながらに記憶している。農業基盤整備も完了し、たばこ、ハウスの導入により収益アップが図られており、この様な作物は浸水に耐えられない。

河床掘削、堤防かさ上げ案も有っているが、確かに相良村の一部は民家も少なく可能性は有ると思われる。人吉市街地やその下流域を考えたとき、河道を広げるため、河床を掘り下げるということであるが、河床は特殊な岩で、掘削には困難を要すると聞いている、掘り下げた後の護岸や橋の補強も必要になり、又生態系に及ぼす影響も大ではないだろうか。又堤防の嵩上げについても、技術的には別として、現在の場所で数メートル高くなったとき、果たして町並みの景観はどうか、良いはずがありません。

小さいことはまだ色々あると思われるが、最後に残る治水対策案としては、ダム案しか考えられない。確かにダムは河川をせき止めることであり、環境に及ぼす影響はあると思われるが、下流に流す水はダム湖の上流から清水バイパスを設けて流すとか、最新の土木技術の粋を集めて、多方面にも配慮をして計画を進めていると聞いている。

以上のことからして、球磨川流域の生命、財産を守るための治水対策はダム案しか考えられない。

川が死ぬとその周囲も死にます。川がいき  
 いていっているとその周囲もいきてい  
 ます。今は何の為に建設するのですか？百年  
 に一回あるか？水の為ですか。  
 先日の有識者会議の方々は数時間かか  
 った。二の美しい自然  
 がわがら水たりの。二の美しい自然  
 は見られず。たりの。二の美しい自然  
 の視察のようでした。少々失望致し  
 ました。  
 二の清流をなくして何の得がある。自然を破  
 壊して何の得がある。今が何を造る事は川を  
 殺す事です。砂防川と川辺川の合流地を見  
 て下さい。砂防川は濁り川、川辺川は澄ん  
 びます。川の水により人吉を流れる砂防川は  
 何とかなる見られず。人を保つています。人吉  
 からは二の川をなくす事は観光で生かして  
 いる所  
 が死んでしまっています。二の美しい山と川の自  
 然の中で生かした。焼酎たから皆に喜んでもら  
 えるのです。二の自然の中で生かした。焼酎た  
 から喜んでもらいます。二の町に観光客も  
 二の町に。たろ本当に町が死んでしま  
 います。

病院と老健施設ばかりの人吉に。下  
 ます。下でに我が町内若者がい  
 りの町です。老若男女小供達の声  
 が聞かれない。町にしたいもの  
 です。  
 今年六月の大雨の件で一言。砂防川  
 が増水し  
 五時頃市房がひり放水のサイレン  
 が鳴りました。その放水に  
 下。その放水により川は増水何  
 ですか？と思  
 いました。雨で水かさが増し  
 川の水があふれるのは目に見  
 えています。そ  
 り白午前中は大きな雨雲も  
 降るようには感じられ  
 ませんでした。山か  
 らの水もありが、濁水に  
 なるのもわかりま  
 す。その水が下流に流れて  
 おくとかく  
 わしい。川の任組みはわ  
 かりません。かもう少  
 し策が。でもと素直に感じ  
 ます。以前の大水  
 害も市房がひり放水の原因が  
 あり、たようにも  
 言われていました。市房か  
 ら川辺川が  
 同時に放水した。人吉は水  
 改です。植林、川  
 の整備、知恵を出し合  
 います。

私は、ダム建設予定地の相良村に住むものですが、この川辺川ダム事業が発足し約半世紀近い四十二年が過ぎようとしています、私ながらに幼少時期を思い出すことと言えば、野原・野之脇地区に『ダム建設反対』の看板をよく目にしたことと、五木村住民の方々だったと思いますが、反対運動の行進をされていたのじゃないかと思えます。

私なりに思う気持ちは、専門的な内容は全くわかりませんが、「なんで？どうして？今頃」というのが率直な気持ちです。なぜなら、昭和三十八年から三年連続して球磨川大規模洪水で発生した災害が引きがねとなり、熊本県議会及び人吉市議会が題した要望で、このダム事業が始まった訳で、もともと人命と財産を守る目的で要望・計画されたのではないかと思えます。おそらく、地権者の方々も様々な問題を抱えながらも同意に決したのではないかと思われれます。

しかし現在は、ダム事業建設に向ける視線が地権者を完全に無視した形で主張されているのではないのでしょうか。確かに環境対策等と大きな問題は山積みあると思いますが、四十年前、地元の方々のダム反対運動時期に、他県の有識者の意見がなぜ、出なかったのか、なんで今になって、いろんな意見が出てくるのか不思議でなりません。

ダム水没者は、生まれ育った故郷を捨て、新転地での生活を早い方では二十五年にもまたがる月日が経過していると思われれます。ダム建設を中止すると洪水から身を守るのか、ダムを建設すると環境破壊が進行するのか、もともと人命・財産を守るダム計画とすれば、ダム建設の回答になるわけですが、ダム本体が大きな災害のひきがねにならないことは当然とし、最大の問題点はダム建設後の地元活性・育成化に対し、地元一人一人が真剣に考え取り組んでいく姿勢で、ダムをバネにして、地方活性化に向けていかなければならないと思えます。

川辺川のみならず下流の球磨川の治水を主要目的に、<sup>なかんずく</sup>就中、下流域である人吉地区や八代地区の水害防備等のために計画された川辺川ダムですが、この川辺川ダムは、利水や発電それに流量の調整機能という多目的ダムとして計画が<sup>た</sup>樹てられ、昭和41年に当時の建設省より発表されましたが、あれからもう42年も経<sup>へ</sup>ようとしています。

思い起こしますと、ダム建設が発表された当時水没予定地の五木村の住民の方々は強い結束のもとで、ダム建設絶対反対で明け暮れていたと記憶しています。

それもそのはずです。先祖代々<sup>えいえい</sup>永永として築きあげ守りぬいてきた家も土地も汗と涙の思い出の結晶も何もかもすべてが、ダム湖の下に沈められてしまうのですから――

しかし、その思いも届かぬまま、球磨村を含む人吉地区や八代地区等下流域住民の安心・安全の確保という大義名分のいわば犠牲となって、ダム工事もやむなしという苦渋の選択をせざるを得なかったのです。

そのような五木村や一部の相良村の住民の方々の思いを無にすることがないようにとの強い願いを込めてダム建設は始まっています。

その後、本体工事に必要なもろもろの付帯工事も着々と進捗し、ダムおよび利水関係の事業費もこれまでに数千億円を<sup>つい</sup>費やすに至っております、これら国民の血税を無駄にすることは決して許されないものと確信します。

また、この事業に<sup>たずさ</sup>携わる基幹産業としての建設業は、建設機械

の販売や修理等をおこなう業種から、パーツ・リース・メンテナンスの業種に亘り、且つ、旅館業や球磨川下りを含む観光産業、遊興飲食業等々のサービス業に至るまでの多くの業種にこれまで少なからず良い意味での関わり合いをもってきました。その中で、観光の目玉となっている球磨川下りを例にとりますと、渇水時期には船底がつかえるため営業が出来ない状態もあったと聞き及んでいますが、ダムが出来れば、渇水時期であっても流量の調整をおこない安定して球磨川の流量を保つことができることから、安心して営業が出来るのではないかと思います。建設業は、外に<sup>ほか</sup>これといった産業の少ないこの地域の労働者の雇用にも多大な貢献をすることで、地域の活性化にも大いに寄与しているのもまた偽らない事実であります。

さて、地球の温暖化が急激に進む中、雨の多い地域は一段と雨量も増え台風も巨大化するといわれます。

台風銀座といわれる九州そして熊本県では、毎年のこと、集中豪雨等による被害が発生しており、また、重大な災害の発生も<sup>きく</sup>危惧されていますが、このような事態にしっかりと対応ができるものと確信している川辺川ダムが、すばらしい建設物として、清流と流域の景観を保持しつつも、人吉・球磨地域や八代地域の住民の方々に、安心・安全を提供し続けていけるダムとして、早期に完成することができるように努めて行こうではありませんか――

## 『川辺川ダム事業に関する県民の意見』

20～30年以前に比べると近年では、全体量では変わらないかもしれませんが、短時間に多量の降雨があり、台風でも、より大型のものが発生しているように感じられてなりません。

そのため、河川や森林または、家屋での大きな災害が目立ちます。球磨川流域でも、河川の拡張や堤防の嵩上げ等の防災工事もだいぶ整備されてきておりますが、大雨が続く時は、堤防の天端付近まで川幅一杯に水が流れているのを毎年のように見ます。

こういった時は、降雨情報・避難場所・避難勧告等のソフト面での体制も整備されているようですが、もう少し水量が増加すると、あるいは、堤防が一部でも破損すると大きな浸水災害が発生するであろうと想像されます。

私も昭和40年、57年の水害の様子を見ましたが、大変だった事を記憶しております。

実際に被害を受けた人達は、その時期だけでなく後々までその影響が残っております。

災害防止対策として、色々な方法があると思いますが、より安全率の高い方法が良いことは勿論であります。

又、現在、実施出来る現実的な方法を選択しなければならないと思います。



自然環境のみを考えると、河川には人工的に手を加えない方が良く  
かも知れません。しかし、それでは人々の安全性・便利性は  
確保できないでしょう。

幾分かのリスクを負うのはやむを得ない事と思います。

緑のダム案ですが、地球温暖化が言われている昨今、樹林を育てる  
事は大切なことですし、又、林野事業が疲弊している今日大いに  
推奨すべきでしょう。

昔に比べると、ほとんどの淵が埋まっていて河床が上がっている所  
が多く見られます。

必要な箇所では、河道掘削と周辺の景観を損なわない方法での  
堤防嵩上げが必要だと思われれます。

最も効果的なダム建設も費用対効果の諸問題もあるかと思われま  
すが、昨今の原油高騰・地球温暖化・将来にむけての食料自給率  
向上の問題を含めて考慮し、治水・利水・発電を含めた多目的な  
ダムであってほしいと思います。

現在、色々な方法が議論に上がっておりますが、流域全体のその  
場所に応じて景観・現実性を考慮し、併用した方法で必要最小限  
の設備を知恵を出し合って造りあげてもらうことを願っています。

川辺川ダム事業に就て

私は20年の経験者として、球磨村地区で、当時  
 は火災での出動はほとんど無く、梅雨時期の大雨又  
 は台風での出動はほとんど無く、球磨川の増水と待機  
 出動、その向市房ダムによる調節、放流の連絡に入る。  
 それにより、上昇水位の到達時を計り、その測り  
 避難誘導の指示が段階をもってなされていく。  
 こんど事もあり川辺川から、市房ダムのことで洪水調節  
 を行えば流域の被害も少なくなるのではと、思いつ  
 成り地集落がある地域は、近手嵩止、宅防工事が進む。  
 洪水からの被害も少なくなる所もあり、  
 川辺川ダムが出来れば洪水調節が出来れば被害は少な  
 くなるであろう。  
 各河川の護岸の整備も進められん、浸水となく  
 可憐な護岸作り。  
 農地のんが用水の引込整備も必要であり、又  
 市町村の農地もうるおうので、山々、田んぼ、  
 このオイル高、川辺川ダムによる、水位の落差と水  
 量を有効に活用し、クリーンなエネルギーである  
 水力発電も是非必要と思ふ。  
 又ダムと流からの土砂流入も、土木ダムを建設する  
 ことで川辺川ダム本体の土砂の堆砂を減らし、水  
 路の維持は、  
 自然環境を壊さず、自然にまかすし、ダム

作りも頼る。

## 川辺川と地域住民の関りについて

川辺川ダム建設は、地域住民との係わり方を色々な角度からの見方が必要と思います。

賛成・反対、双方からの意見も一杯出て来ていますが、そのあり方について意見を出し合う時、まず絶対条件として、近い将来ではなく遠大な将来を見据えた計画立案が必要ではないでしょうか。

今、地球規模で気象変化、それに伴う環境変化が進みつつあります。それはどこかでくい止めなければなりません。

気温の上昇、大気汚染等々。

毎年やって来る台風ひとつ例に取っても、コースが微妙に変化し、勢力も大型化。今まで、大きなめったに来ないような台風と言っていた物が、これからは並の台風になるような、予測もされています。

過去のデータを積み上げて予測した、100年に一度の降水量等も、今後の気象変化では、まったく基礎資料として使えない物になる様な気さえします。

今までは想像だにしなかった豪雨も考えられますし、その為には以前から言われている、緑のダム構想は是非、行動に移していかなければならない事と思います。

しかし、その緑のダムも、今日始めて一年後には効果が出る  
と言う、速効性のあるものではありません。

数十年、あるいは数百年と言う時間のかかる計画です。

そして、100年に一度の大災害をもたらす様な自然現象は、  
100年目に定期的に来るものではなく、明日かもしれない。

99年後かもしれない。

それまでの間、万全のそなえが、出来上がるまでの予防措置も  
亦、絶対不可欠です。

その為には、ダムはとても有効ではないでしょうか？

清流を残す、自然破壊が進む今こそ、豊かな自然は、人類皆  
の宝として守っていかなければならない事です。

その事はダム建設と完全に相反する事ではなく、両立させる  
為に知恵を搾っていくべき事ではないでしょうか。

## 「川辺川ダム事業に関する県民の意見」

今回の募集に関して、私なりの意見としては、ダム建設に賛成です。

下記の2項が主な賛成理由です。

1. ダム建設計画決定時から、建設予定地である相良村及び、水没予定地の五木村に於いては、離村ならびに移転をされた方々の心情等を考慮。
2. 洪水等の自然災害による、流域住民の安全衛生及び、土地・家屋等の財産の保護。

ダム建設に関しては、今までに賛否両論多数の意見が、出ているみたいで、反対派の意見としては、自然環境が主みたいで他の方法による治水を主張されていますね。

確かに、ダム建設による水質の悪化は、今までに建設されたダムの下流域に於いては、認めざる得ないでしょう。

しかし、今回の川辺川ダムに関しては、下流域の水質（水量）悪化対策を考慮した構造みたいですし、極端な悪化は無いのではと思います。

また、緑の治水、河床掘削等の方法に於いても、十分な効果は有ると思いますが、最近の気象変化（温暖化）による、急激な降雨・降雨量に果たして対処できるのか疑問点が有ります。

そのような観点からも、水量を調整する為の機能を有したダムの建設は必要だと思います。

話は変わりますが、県営荒瀬ダムの存続に関しても賛成です。

川辺川ダム事業に思うこと

環境問題に逆行する外、清流がなくなり、偏った意見。環境問題で地域住民以外、清流がなくなり、偏った意見。環境問題で地域住民以外、清流がなくなり、偏った意見。環境問題で地域住民以外、清流がなくなり、偏った意見。

一、

二、

三、

川辺川を自らの目で見たり、くんだり、荒れに。環境問題で地域住民以外、清流がなくなり、偏った意見。環境問題で地域住民以外、清流がなくなり、偏った意見。環境問題で地域住民以外、清流がなくなり、偏った意見。









受信メール: 川辺川ダム建設に賛成です

河川改修で対応すればその実現には長い年月を要すると思う。

ダムの残事業は仮設日も終了し、ダム本体工事に着工すれば5年程度で完成し、ダム下流から河口まで治水効果は一斉に発現出来るが、ダム計画を放棄してダムに匹敵する治水効果をダムの効果と同様に発現させる為には、新たに多大な区間に対して河川改修の手を加えなければならない。

その為には、新たな用地取得等を要することなどを考慮すればその実現には今後更に多大な歳月を要し、その完成時期は明言できない事態となると思われる為である。



受信メール: 川辺川ダムについて

私は、あさぎり町に住む と申します

私の主人は、建設業に従事し今回の川辺川ダム問題について  
主人と色々話すことがあります、主人はダムが出来るのを半分はあきらめて  
いますが、私としては、早くダムを造ってほしいのです、なぜかと申しますと  
仕事柄、大雨や洪水出水時に昼夜を問わず、河川巡視へ出勤要請があれば  
出て行きます。

出水による被害の危険性が高まるのは、往々にして深夜に多いのですが、  
流域住民の方々が枕を高くして熟睡している頃、雨の中を危険と隣り合わせで  
水防活動や洪水監視に頑張っているのです。

主人は、強い雨が降り出すと夜中も呼び出しがあったり、絶えずテレビで気象情報  
を気にしたり、水害を心配します

私達も主人が危険なところに行かず、家で私たち家族を守ってほしいです  
その為にも、早く安心して住めるような川の状態にする必要があります  
ご判断に苦慮されてるとは思いますが、知事のご決断に期待します



---

受信メール: 川辺川ダム賛成

---

私は川辺川ダムについては、賛成です。

ダムの残事業は、ほとんどがダム本体工事のみである。

引き換え、同じ安全度を確保するためには、ダムによる洪水低減量分を今後新たに河川改修により確保しなくてはならないため、熊本県負担を含め明らかに多額の費用を必要とすることになる。同時にダム建設のために投入された、費用のかなりの部分が将来とも効果を挙げない無駄な投資だったことになる。よって川辺川ダムは最後まで作るべきである。



受信メール: 川辺川ダム建設に対する意見

公聴会に参加できませんでしたので、県民の一人として意見を述べます。  
先日の「有識者会議」で、同アドバイザーのオランダ人ディック・デ・ブラウン氏が、僅か2日日間だけ現地に入り「川辺川はベスト」などと記者会見で述べられました。  
こんな重大なことについて、僅かの期間だけで結論を出されたことに、強い憤りを感じ、知事の任命責任が問われます。  
知事は、県民や地域住民の声に謙虚に耳を傾けるべきです。  
マスコミのどの世論調査を見ても、ダム反対が過半数を超えています。  
知事は、県民の声をよく聞きダム反対を決断すべきです。

一人県民より

球	若	川	の	河	川	改	修	に	対	応	す	水	の
人	吉	地	区	に	の	河	道	計	画	が	成	り	之
が	疑	問	が	あ	る								つ
人	吉	地	区	に	洪	水	計	画	流	量	を	流	す
長	の	川	は	川	辺	川	が	の	よ	る	洪	水	調
節	命	を	放	棄	し	て	が	の	近	敵	す	る	治
効	果	を	得	る	効	果	を	同	様	に	発	現	さ
す	る	区	間	に	対	し	河	川	改	修	に	よ	つ
て	確	保	し	な	く	て	は	な	ら	な	い		
その	為	に	は	特	に	人	吉	地	区	に	特	殊	の
が	予	見	ら	れ	る	球	若	川	を	核	心	と	し
岸	や	橋	農	業	農	水	堰	な	ど	の	建	て	替
之	が	現	実	的	に	本	格	に	出	来	る	工	事
の	あ	る	の	が									
私	は	球	若	川	の	改	修	は	現	状	の	人	吉
視	察	施	設	を	破	壊	し	新	た	る	用	地	
取	得	も	必	要	と	な	り	地	下	水	得	金	な
今	後	更	に	多	大	な	費	用	と	幾	月	を	要
す	こ	と	を	考	慮	す	水	の	完	成	期	間	は
言	ひ	ま	す	事	務	と	な	る	と	思	う		
先	日	の	ブ	ラ	ウ	ン	先	生	の	意	見	に	も
あ	ら	う	の	球	若	川	に	流	域	に	が		



熊本県知事  
蒲島郁夫様

## なぜ！水害を体験した者がダムに反対するのか

### 1. 水害をなくすための市房ダム建設

私は幼少の頃、球磨川支流の山田川のあたりで育ち、数多くの水害を体験してきました。「おい、川の水はどこまで来とるか見てこい」、その報告を待って親父は判断し、家族のものに指示をしていた。洪水は年中行事の一つになっていたのである。

そのような中に、水害をなくすことを大きな看板として、昭和35年3月に多目的の県営市房ダムが建設されました。そこで1、2年は水害はなかったので大いに期待したのですが、3年目からまた水害が始まりました。以下歴史をたどり、市房ダムが私たちの生活の中にかいにかかわってきたのかを考えてみることにします。

### 2. 3年連続の水害

建設省が川辺川ダムの必要性を語りだした昭和38年、39年、40年と3年連続で起きた水害のことではありますが、昭和38年8月17日の洪水で豪雨に見舞われたのは川辺川上流だけで、被害は五木村に集中、人吉市より下流の被害はさほど大きくはありませんでした。五木村は川辺川建設予定地より上流であり、洪水調節の恩恵を受けないばかりか、ダムの湖底に沈む運命にあることを考えると、38年の水害を川辺川ダム建設の理由付けに使うことは無理があり、実質的には39年、40年の2つの水害が問題になってきます。

### 3. 39年8月24日水害

39年8月24日の水害は、台風14号によるもので、雨は短期間に集中して降り、流域各地の24時間雨量が100ミリを超えたのは8月23日だけです。ただ23日はいちばん少ない人吉でも161ミリ、最も多い市房山では456ミリも降っており、700戸を超える床上浸水を出しています。

#### 4. 40年7月3日水害

一方、40年の7.3水害は、梅雨前線によるもので、長雨の末の豪雨が原因でした。6月26日の降り始め以来、毎日各地で数十ミリの降雨が続き、30日から7月2日までの3日間は多くの地点で連日200ミリ前後の雨量を記録、死者1名、浸水家屋五千戸、被害21町内全市、泥の海となりました。7月3日、夜明けとともに襲ってきた濁流は、大橋欄干（河床より高さ8m）を越しました。矢黒町字調練場に残る「お下の乱」の半兵衛碑高さ2.6mの碑は押し倒され、数メートル流された。実に325年以来の大水害だったのだが、従来の洪水とは異なり、水が一気に押し寄せたために何の対応も出来ぬまま甚大な被害を与えたのでした。

#### 5. 災害を視察した九州地方建設局の坂梨河川部長のコメント

また、この災害を視察した九州地方建設局の坂梨河川部長は、「水害の原因は何ととっても球磨川の異常水位だ。球磨川の計画洪水水位は5.12mであるが、それが6.7mと、1.57mもオーバーした。これは支流の川辺川と球磨川本流が重なって増水したためだが、こんなことは過去にはなかったことだ。球磨川の計画洪水水位は70年から100年に一度の大洪水を想定して決められたもので、堤防の高さなどもそれを基準につくってあるがその想定を完全に覆された。そのため、こんどの水害のデータを綿密に調べ、果たして河川改修だけでいいのか、それとも上流に防災ダムを造る必要があるかなど、今後の治水対策を根本的に検討しなおさなければならないだろう」とコメントを残しています。

そして、治水対策を根本的に見直した結果、川辺川ダムを建設することを決定し、私たちに次のような説明がなされました。

#### 6. 大西至建設省河川開発課課長補佐の答弁

「昭和40年7月の洪水については、ダムに流入した最大流量よりも、ダムの放流はもちろん致しましたが、放流した放流量は小さかったわけです。そのときのデータを全部見ても、ですからダムがなければもっとひどいことになっていたというのは確かな事実です。」

人吉地点の急激な水位上昇の原因は、支川の川辺川および市房ダム下流の支川から流出したものが大半を占めており、川辺川等の流域に集中した豪雨が原因だと考えられます。仮に川辺川ダムが建設されていたとするならば、人吉の午前6時の最高水位（5.05m）であり、人吉地点のピーク流量は毎秒5,000トンの4割の洪水調節をおこない、水位を約1.3m下げていたと考えられます。



## 7. 午前6時の球磨川の水位の改ざん

まさにダムありきの解説であり、被害者のみなさんが異口同音に、『ダムから放流されますので注意してください』の連絡の後、短時間に2m近く上昇した部分はカットされている」と証言していることから明らかです。水害を体験した者にとって、(6. 07m→5. 05m) 水位を改ざんされることは許されることではありません。

## 8. 水害体験者の会の 会長の証言

当会の会長である 〇〇氏は、7. 3大水害を次のように説明しています。

「子どもの頃から頻繁に洪水を体験してきたが、7. 3水害はそれまでの水害と事情が違った。すでに人吉などで浸水が始まっている最中、満杯になった上流の市房ダムが決壊を防ぐため緊急放水したのだ。その結果、市内は急激に水位が上昇し、かつてない大きな被害を出した。放水は昭和46年8月の水害でも繰り返された。洪水を調節するはずのダムが水害を助長したことを、私たちは決して忘れない。」

さらにその後、両水害時に匹敵する量の雨が降ったと考えられるのは、昭和46年8月、47年7月、54年7月、58年7月の計5回です。この中で昭和54年と58年は被害がほとんどでておらず、水害となったのは昭和46年、47年、57年の3回でした。

## 9. 私の所見

そこで私は大きな疑念を持たざるを得ませんでした。それは水害を無くすはずの市房ダムは何者かということでした。水害を無くすどころか、昭和年代最大の被害を受けたのです。

## 10. 人吉市議会に川辺川ダム問題調査特別委員会が設置

昭和51年6月、人吉市議会に川辺川ダム問題調査特別委員会が設置されることになりましたが、私はその特別委員会に一番に申し入れをし、調査活動に参加しました。調査したところは鶴田ダム、一ツ瀬ダム、下笠ダム、早明浦ダムでした。災害および原因がダム構造上問題があることが明確となりました。さらに山林の乱伐が大きな原因とも考えられます。よって涵養林、保安林の保護について建設省の方針を明確にするとともに、その対策を講じられるよう要請しました。

「ダムが水資源の総合的な開発の上から高い社会性をもち、重要な役割を果たしている

ことは認められるが、ダム公害というべき災害、流量の減少および水質汚濁が生じ、美しい自然環境あるいは河川環境が破壊され、観光都市としての景観を損ない、観光価値観が低下していること、さらに川に生計を求めている住民に経済的に圧迫を与えていることが鶴田ダム、一ツ瀬ダム、下笠ダム、早明浦ダムの調査で明確になった」

委員会は以上の調査結果を踏まえて、ダム問題について建設省の見解を糺しながら討議を重ねてきたが、災害及び汚濁の原因がダム構造ならびに山林の乱伐に大きな原因が考えられました。かかる状況から判断して、川辺川ダムが建設された場合、球磨川水系流域においても同じような災害、流量の減少、水質汚濁が生じる危険性が十分であると予想されました。よって委員会は人吉地域のダム公害を未然に防止するため（別紙要望事項をまとめ）関係省庁に対し、要請していくことを決定しました。

#### 11. 川辺川ダム問題特別委員会から球磨川水系ダム問題対策特別委員会へ

3年間の川辺川ダム問題特別委員会は球磨川水系ダム問題対策特別委員会に切り替えられ、幅広く活動していくことになるが、ここで一つ問題になることは、当時建設省に強いと言われた永田正義市長から「反対の表現だけはしないでほしい。なにもできなくなるから」と打診があったが、球磨川河川改修という要求事項があったからにはほかなりませんでした。

昭和54年3月19日、人吉市議会は球磨川水系ダム問題対策特別委員会と一緒に当時の九州地方整備局川辺川工事事務所長の松本広氏へはじめて要望書を提出しました。以来、27年間、今日まで回答らしい回答はなく対立したままの状態です。

#### 12. ダムによらない治水対策こそが必要

人吉市では市議会をはじめ各種団体が終始一貫、清流球磨川を守る訴えを中心に球磨川河川改修工事の早期実現をはたらきかけてきました。40年の大水害後、人吉の住民が要求したのはダム建設ではなく球磨川の河川改修の1日も早い完成でした。おかげで河川改修工事は進み、川幅の拡張、堤防、特殊堤防の整備、内水排除ポンプ施設が完備され水害は現在なくなりました。

川辺川ダムは総貯水量が市房ダムの3倍、非常放水門においては毎秒5160トンの放水能力を持つ九州最大級のダムです。もし市房ダムと同時放水という事態になれば40年、46年を上回る大災害を招きかねません。ダムによる過ちをみたび繰り返してはならないというのが私たち水害体験者の会の主張です。

ダムに頼らぬ治水対策の実現、勇気ある政策転換を心からお願いするものです。

熊本県にとって、潮谷義子知事が引退されたことは、大変良かったと思います。そして、蒲島知事の誕生を大歓迎しますと共に、これからの県政発展に大きな期待をするものであります。

### 1. 荒瀬ダム撤去凍結について

蒲島知事の考え方に大賛成であります。老朽化して崩壊するということは、今後、相当の期間考えられません。治水と農業用水、発電は、大変大事なことです。是非凍結をお願いします。

### 2. 川辺川ダムについて

球磨川流域を災害から守るには、みどりのダムとか言ってきたことではなく、現実問題としてダム以外に考えられません。是非、ダムを作ることに決定して下さい。そして、せつかくの大きなダムですから、発電も兼ねたダムをお願いします。

### 3. 人吉球磨地区の市町村合併について

平成の大合併で、県内でも多くの市町村が合併しました。人吉球磨地区の市町村数も激しく、企業で言いますと倒産寸前であり、1年でも早い合併が望まれます。上、中、下地域と分けるのではなく、「人吉球磨は一つ」ということで（人口は約10万人）自主的に任せることではなく、反発制的に早期合併推進をお願いします。人吉球磨は取り残されてはかた。



受信メール: 川辺川ダム建設に賛成です

---

河川改修で対応すればその実現には長い年月を要すると思う。

ダムの残事業は仮設日も終了し、ダム本体工事に着工すれば5年程度で完成し、ダム下流から河口まで治水効果は一斉に発現出来るが、ダム計画を放棄してダムに匹敵する治水効果をダムの効果と同様に発現させる為には、新たに多大な区間に対して河川改修の手を加えなければならない。

その為には、新たな用地取得等を要することなどを考慮すればその実現には今後更に多大な歳月を要し、その完成時期は明言できない事態となると思われる為である。

---



---

受信メール: 川辺川ダムについて

---

単純に1個人として、意見を言わしてください。  
住民や、色んな施設の移転もほぼ完了しています  
道路や、橋の付け替えもほぼ完了しています  
話が持ち上がった当時の頃の、旧五木村の人達の気持ちを  
考えると、今更中止とは言えないと思います。  
去年、三重県と神奈川県の方が、川辺の現状を見たいと  
言い連れて行ったところ、同じ意見を言っていました。

---

川辺川ダム事業に関する意見書

私は、球磨川流域の八代の住民として川辺川ダム建設に賛成します。

流域住民の生命と財産を守る治水対策を最大の目的としている川辺川ダムの早期完成を望んでおります。